

## 新任のあいさつ



公益社団法人長野県介護福祉士会  
会長 鈴木よし子

この度、令和3年度定時社員総会・理事会において、会長に選任され今年度から会長に就任することになりました鈴木よし子でございます。中信地区の一部事務組合である松塩筑木曾老人福祉施設組合に勤務しており、介護には37年間、関わってきました。介護福祉士の歴史と、各前会長の功績を思うと、大変に荷の重い役であると、責任を感じているところでございますが、2年の任期の間、精一杯勤めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、長野県介護福祉士会は、諸先輩方々の熱い思いで平成4年に設立されました。今年で29年を迎え、今日まで「研修なくして介護なし」をモットウに介護福祉士の資質向上を目指し研修を中心に活動を進めて来ております。生活を身近で支える専門職としての介護福祉士の資質を高めて社会の要請に応え、社会的評価を高めるために今後も各種研修を中心に、認定介護福祉士の養成、リーダーの育成、介護過程の実践等を進めて参ります。

特に、地域包括ケアシステムの構築、新しい介護の形である科学的介護の推進では、今まで以上に医療、介護の連携、協働をしていくことが重要となり、利用者の日常に接する機会が多く日々の状態変化にも気づきやすい立場にある介護福祉士は、チームのサービスのマネージメントや他職種と連携する力が必要となります。介護現場において専門性をもって、チームケアを推進する際のリーダーとしての役割を担うことが期待されています。

「介護福祉士の未来は介護福祉士が変える！！」そのためにも、皆さん一人一人の専門職としての力を発揮できるよう「現場の参加、地域の参加、みんなが参加できる介護福祉士会」を作り上げたいと思います。

これらを達成するためには、会員の皆様のお力がどうしても必要ですこの認識を踏まえて、次の3点に特に力を注ぎたいと考えます。

- 1点目は、会員のニーズに即した研修・企画等を実施し、さらなる活動の充実を図ること。
- 2点目は、入会することが介護福祉士のステータスとなるように、職能団体としての社会的価値を高めること。
- 3点目は、介護福祉士を職能団体として能動的に発信し、社会からの要請に応えること。バトンは渡されました。諸先輩方の熱意を受け継ぎ、長野県介護福祉士会が更なる前進ができるよう役員一同、力を合わせ努力して参りますので、どうぞ会員の皆さんの力をお貸しくださいよう、よろしくお願いいたします。